

わがまちHISTORYを知ろう!

池田のい・ま・むかし



池田は、機織りに関する伝承を持つまちです。長い歴史の中で人びとに広まり、親しまれてきたこの伝承を、本市が誕生して80周年を迎えるいま、新たに見つめてみましょう。

池田名所図絵(壽命寺蔵)。呉服社(呉服神社)と漢織社(伊居太神社)をそれぞれ中心に、池田の名所旧跡が鳥瞰図風に描かれている。



クレハトリ・アヤハトリ伝承

古代、応神天皇おうじんの求めに応じて、中国の呉の国からクレハトリとアヤハトリという二人の女性が来日し、池田の地で機織りをはじめ、人びとにその技術を教えました。やがて機織り技術は日本に広まっていったとされます。市内には、クレハトリ・アヤハトリが上陸した地「唐船が淵」、水をくみ上げ糸を染めた「染殿井」、二人が機を織っていると天から星が降って照らした「星の御門(星の宮)」、布を掛けて干した「絹掛けの松」など伝承に関する場所が数々あります。また、この地で亡くなった二人は、それぞれ「姫室」「梅室」という塚に葬られ、後にクレハトリは呉服神社の、アヤハトリは伊居太神社の祭神として祭られたといわれます。



呉服姫坐像(壽命寺蔵)と穴織姫坐像(伊居太神社蔵)

『日本書紀』伝承のもととは

クレハトリ・アヤハトリ伝承は、古代の歴史書『日本書紀』(720年成立)に出てくる話がベースになっているとされます。同書には、中国大陸や朝鮮半島から機織りなどさまざまな技術が日本にもたらされたことが記されています。クレハトリ・アヤハトリについては、応神天皇の時代、呉に遣わされた阿知使主と都加使主が連れて帰ってきた縫工女の中に、2人と思われる「呉織」「穴織」の名が見られます。ところが、『日本書紀』には、2人が「池田に来た」ことは全く出てきません。また、機織りに関する同じような伝承は、西宮市や奈良県川西町、富山市など各地にも存在しているのです。では、いったいなぜ池田にこの伝承が残されているのでしょうか。

渡来系氏族と池田

研究者の間で指摘されているのは、4〜7世紀に中国大陸や朝鮮半島から来た渡来系氏族の存在です。彼らは高い技術や知識を持ち、やがて各種の職

多彩な展示から伝承を見つめました



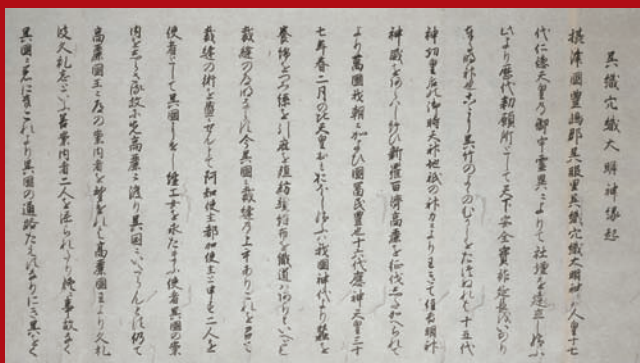
平成30(2018)年10月から開催され、12月に幕を閉じた特別展「クレハトリ・アヤハトリ～池田に伝わる機織りの伝承～」。

展示室に入って驚くのは、展示資料の多彩さ。社寺縁起や名所図会、古絵図、呉織・穴織の木像などさまざまで、伝承がいかに多様な形で根付いてきたかが分かります。来館者の多くは市民や近隣市からの人たちですが、中には機織り伝承を持つ遠方のまちから訪れた人も。



『摂津名所図会』(同資料館蔵)。観光案内書ともいえる出版物で、寛政10(1798)年に刊行された巻6では池田市域のことを収録。機織りの挿絵も見られる。

11月11日に開かれた記念講演会では、流通科学大学非常勤講師の植野加代子さんが渡来系氏族・秦氏の研究の見地から伝承について話をされ、参加者は91人と大盛況だったそう。「講演で伝承の背景が分かり、より興味が深まりました」「あちこちにある機会となりました」。



呉織穴織大明神縁起(部分)(伊居太神社蔵)。「日本書紀」をもとにいろいろな要素が加わっている。

業集団となっていきました。中でも秦氏と漢氏は同氏族の代表格。秦氏は土地開発や機織りにたけていました。現在の市域の一部は古代、摂津国豊嶋郡秦上郷・秦下郷と呼ばれ、勢力を持っていたことがうかがえます。

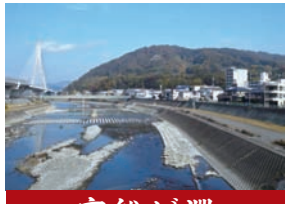
また漢氏は平安時代中期に呉庭荘(現在の神田・宇保町一带)を開発した土師氏が漢氏の祖先神であり呉織・穴織を連れて来たこととされる阿知使主を荘内に祭ったことが知られます。このように、渡来系氏族が池田での伝承誕生に関連しているのではないかとわがっています。

物語性が備わった伝承へ

その後伝承は、時の経過とともにさまざまな要素が加わっていきました。特に社寺の縁起は、この伝承が豊かな物語性を持つようになったことと大き

く関係しています。伊居太神社所蔵の元禄6(1693)年に仕立てられた巻物に収められた「呉織穴織大明神縁起」では、呉織と穴織が呉服里で暮らしたことや17代仁徳天皇が2人の社を建立したことが記載されています。さらに「呉織穴織大明神縁起略」では、2人は136歳まで生きたとし、染殿井などの伝承地とその由来を紹介しています。

伝承にまつわるポイントを訪れてみよう!



唐船が淵

現在の木部町から新町の猪名川のほとり。碑が立っています。

行基開山。縁起では、呉織・穴織が携えてきた薬師如来像が神託により出現し、本尊として安置されたと伝えられます。

壽命寺



織った布を掛けて干した松があったといえます。現在は記念碑があります。

絹掛けの松

伊居太神社



池田の歴史や文化を多彩な資料で紹介しています。

開館：午前10時～午後6時
休館：月・火曜日・祝日(火曜日が祝日の場合は翌日も) 年末年始、展示替え期間
入館：無料 ☎ 751・3019

歴史民俗資料館

図書館(休館中)横です!

市内には、伝承に出てくる場所がたくさんあります

呉服神社

衣被きの碑

星の御門(星の宮)



染殿井

水をくみ、色を染めた井戸があったとされます。江戸時代初期にはすでにありました。

二人の織姫が機を織った場所といわれます。

古代の池田を想像しながら歩いてみませんか?



第3代オリヒメ姉妹・クレハトリ(姉役)



第3代オリヒメ姉妹・アヤハトリ(妹役)

みなさんの心の中に、まちの伝承や歴史が息づいてくれたら

この伝承は、物語性を持って今日まで継承されてきたという点が特徴的。ただ機織りの神様が神社の祭神であるというだけではなく、市域に関わりのある場所がいくつも伝わるなど、ストーリーとして非常に面白く展開されているのが興味深いところだ。

伝承や歴史というテーマは、なまもののように感じるかもしれませんが、現在暮らしているまちには多くの先人たちの営みの上に成り立ち、受け継がれてきたと考えると親しみを覚えるのではないだろうか。自分たちのまちの伝承や歴史を知り、ふるさと池田への思いを深めてもらえるといいなと思っています。

昨秋の特別展は、いろいろなところで注目を集め、諸説あふれる「クレハトリ・アヤハトリ伝承」を市制施行80周年を迎えるに先立ちあらためて見てみようとの思いから開催しました。



歴史民俗資料館
館長・田中 万里子

池田のいまを未来へ伝えよう

池田市制施行 80周年

昭和14(1939)年4月29日、池田市は誕生しました。翌年に制定された市章は、「クレハトリ・アヤハトリ伝承」を題材に井桁と糸巻きの形がデザインされ、長い歴史を背景に持つまちであることが伝わります。

池田市誕生80周年にあたる今年は、さまざまな企画が予定され、新たな歴史への一歩を踏み出します。詳細は市ホームページなどでお知らせしますのでお楽しみに!

▶問い合わせは空港・観光課 ☎754・6244

80周年に向けて 池田市長 倉田 薫



分権制度を立ち上げて新たな発展に向けて、市域を二つのテーマパークに見立て、各地域の特色を生かした活力ある中長期的なまちづくりの展望を示す「池田のまち みんなまとめてテーマパーク構想」を策定しました。

今年はこのテーマパーク構想に基づき、ウオンバットまぶく・インスタントラーメンなど本市が誇る地域資源のPRや、池田城跡公園を基点とした忍者集団による観光客おもてなしの取り組みなど、80周年に向けての気運を高めて参る所存でございます。

結びに、本市のまちづくりの原点である「小さくとも世界に誇れる池田」をスローガンに、未来へと羽ばたいていくよう、これからも市民や関係者の皆さまのお力をお借りしながら、共に歩んで参りたいと思います。



▲市制施行時の池田市庁舎 (昭和14年)



▲池田駅前国道176号 (昭和36年)



▲ローンセストン市と姉妹都市提携 (昭和40年)



▲大阪国際空港 (昭和43年)



▲池田駅前 (昭和47年)



▲蘇州市と友好都市提携 (昭和56年)



▲市制施行70周年式典 (平成21年)



▲ほそごう学園開校 (平成27年)



▲新たなウオンバット来園 (平成29年)

応募待ってるでござる!



80周年記念ロゴを募集!!!!!!

池田市制施行80周年記念事業の「池田市らしさ」を表現した親しみやすいロゴマークのデザインを公募します。採用者には20万円と記念品が、佳作(最高2点選定)には3万円が贈られます。

■内容: 応募者が創作した未発表のオリジナル作品とし、第三者の著作権、商標権などの権利を侵害しない作品、他の作品(商標含む)と同一または類似していない作品で、「市制施行80周年」であることを分かりやすく伝えるデザインのロゴ

■申し込み先= 2月15日(金)(必着)までに空港・観光課

※結果は3月以降に市ホームページで発表。受賞作品は著作権を無償で池田市に譲渡し、使用権は池田市に帰属します。詳細は1月以降に市ホームページをご覧ください。